

## お別れのあいさつ

給食調理員 渡部晃平

朱雀第一小学校に着任して2年が経ちでみなさんとお別れの時がやってきました。  
この2年間は僕にとって貴重な時間になりました。

仕事の面はホテル・レストランでは目にすることのない、約500人分の大量の食材、  
1度に500人分の焼き物調理ができるスチコン、大きな調理釜が4つ、どれも驚くものでした。

給食開始までにすべて棚に配置し、代替の食材・物資がないため失敗は許されない、こどもたちに「おいしい!」と言ってもらえる給食に仕上げなければならない。

この食数の調理作業を時間内に仕上げ、なおかつ納得のいく出来栄えに仕上げるのには時間がかかり苦労しました。

苦労の末返却後のこどもたちからの感謝の言葉はいつも嬉しく、調理のやりがいを感じることができました。

僕は京都市出身ではないので、地元の給食との違いを見るのも新鮮でした。といったのも、僕は中学1年生の時から調理の仕事をする夢を持っていました。が、その当時も調理専門学校に通っていた時も給食調理に従事するとは思っていませんでしたし、関西圏の出身でもないのに京都市でこんな運命になるとは学生時代には全く想定していなかった人生になってしまいました。

全く想定していない人生でしたが、新天地ではたくさんの人と出会いこの環境ではないと学ぶことのできない体験をすることができました。

最後にみなさんに心がけてもらいたいことがあります。

「食事1食を食べることはすごく大変なこと」ということです。

もし、大きな災害がおこったとします。そうなれば、1食分食べること、お腹いっぱい食べることは困難になります。そんな日が1、2日では解消しません。最悪ずっと続く可能性があるかもしれません。

1食分の食事には生産者・運送業者・調理業者たくさんの人々の想いが詰まっています。そして、何より日常が幸せで平和でなければなりません。その日常に感謝しながら1食の重みを感じながら食事をしてもらえたら嬉しいです。

2年間という短い時間でしたが僕のことを支えてくださったみなさまには感謝いたします。ありがとうございました。

